

湯梨浜学園新聞

ゆりはまがくえん



地域国語でタブレットを使って調べながら作文をする生徒ら

クラス分けや独自教科、学術大会 生徒の力を伸ばす

本校では、生徒の力を最大限に伸ばす学習の取り組みを行っている。「習熟度によるクラス分け」や「基礎学力向上講座」のほか、本校独自の「地域国語」や「地域社会」などで、科学の甲子園や知的書評合戦のピリオバトルなどの学術大会で好成績を収める実績にもつながっている。「習熟度クラス」では、国語・数学・英語は、基礎からしっかり学習したい生徒対象の「αクラス」、発展内容に挑戦したい生徒対象の「βクラス」に分かれ

る。クラスを分けることで、より生徒の集中力と理解度が上げられる。基礎を学び直したい生徒には、決まった曜日に自習室や基礎学力向上講座が午後9時まで実施されるなど、苦手科目をフォローするシステムもある。地域の諸問題について深く考える科目も設定されている。「地域国語」では文章の書き方を学んだ後、地元新聞を使って関心のあるテーマを見つけて感想文や意見を作成。「地域社会」では、グラフなどを基に地

域の特徴を調べてまとめた、どのようなことが問題になっているかを考えたりする。成果の一環として「科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア」「英語弁論大会」「全国高校ピリオバトル」「全国高校俳句選手権大会」など、各種学術大会で好成績を上げている。また、多くの作文コンクールや全国規模の俳句・短歌コンクールでも受賞者を出すなど、学校での学びだけではなく、自分の才能を發揮する生徒がたくさんいる。

学校概要



【学校名】湯梨浜学園中学校・高等学校
【所在地】湯梨浜町田畑32の1
【校長名】岩田直樹
【生徒数】272人(中学10人、全日制高校80人、通信制高校91人)



【沿革】2006年4月 開校。全日制課程普通科の設置
2015年4月 通信制課程普通科の設置
2016年7月 校名を湯梨浜学園中学校・高等学校に変更
【教育目標】科学技術創造立国を支える人材育成、また国際社会で活躍できる人材輩出のため、理数教育、そして語学教育に力を入れる。

進学先

本校では、国立大や私立大に進学する生徒が多数いる。先輩方の主な進学先は次の通り。
北海道大、東北大、筑波大、東京外国語大、名古屋大(医学部)、大阪大、神戸大、九州大、金沢大、奈良女子大、鳥取大(医学部)、島根大、岡山大(歯学部)、大分大(薬学部)、兵庫医科大学ほか。

思い思いに活躍 多彩な部活動



本校には、自分たちのやりたいと思う部活動に入る環境が整っている。運動部では、剣道部、バドミントン部、水泳部が活躍。ハワイで伝統的に踊られているフラダンスを踊るフラ部は、湯梨浜町ならではの珍しい部活の一つだ。文化部には、美術部や科学部、クイズ研究会、数学研究会、E.S.S.、料理部などがある。中でも、多種多様な動物がいる生物部が特徴的だ。チンチラの「あんこ」は本校のアイドル的存在で、ヤギやリウネなど珍しいヤギを飼育する生物部



ス、デグーなど個性豊かな動物たちもいる。セラピー犬として活躍するスクールドッグの存在も大きい。書道にダンスを加えた書道部の書道パフォーマンスは、地域のイベントに引張りだこ。囲碁・将棋部は今年、将棋部門が鳥取県代表として近畿高校文化祭福井大会へ団体戦出場を決める快挙を果たし、合唱部も昨年、第90回NHK全国学校音楽コンクール中国大会に出場した。俳句部は最近、たくさんのコンテストで賞を受賞するなど活躍が目覚ましい。

みんなが「主役」！

学園最大の学校行事「夏梨祭」

本校には、多彩な学校行事がある。保護者に好評の外部講師を招いた「教育講演会」をはじめ、学園祭の「夏梨祭」をほかに、学園祭の「夏梨祭」縦割りチームで取り組む「運動会」、クラス一丸となって発表する「音楽会」、中学生と高校生が交流する「遠足」などが行われる。特に夏梨祭は、全校生徒が協力しながら臨む学園最大の催しだ。どの企画も全ての生徒に活躍の場が与えられ、「皆が主役」になれることが魅力である。初日は、劇やダンスなどのクラスパフォーマンスやクラスへの思いを形にするクラスアートの発表があり、練習段階を含めてクラスメートの仲がより深まる。



心を一つに、息の合った合唱を披露する中学2年生

学び生かし 語学力磨く

本校では、米領グアムやオーストラリアなどの英語圏の国で海外研修を行っている。6年間で2回、海外に赴く。生きた英語に触れ、これまでの学びを実践する貴重な機会だ。昨年度は、オーストラリアで5日間の研修を実施した。農場体験やグリーン島での海洋学習などを通じて、現地の文化や言語を学んだ。滞在期間中、多くの生徒の印象に残るイベントがファームステイだ。生徒が3〜5人に分かれ、各家庭で農作業や食事の準備を手伝った。食後は家族や日本文化などを英語で紹介して交流を深める

英語圏の国に海外研修

など、英語力が鍛えられるだけでなく、英語を話すことに対する自信も付けることができた。当時、高校2年生で生徒会長だった渡辺紘子さんは「ステイ先のホストファミリーはどとてもフレンドリーで、英語での自己紹介や将来の夢、地元の自慢話や世間話などで盛り上がった。ケアンズは美しい笑顔にあふれた美しい町で、機会があればまた訪ねたい」と笑顔で話した。

地域に根付いた 科学的人材を育成



理化学研究所の施設で研修する生徒ら

SSH指定校に選出

本校は本年度から、国際的な科学技術人材の育成を図る文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSHS)」の指定校となった。自然科学と人文・社会科学の「知」を融合した先進的な理数系教育に関する研究開発などに取り組む「文理融合基礎枠」での指定校は県内初となる。生徒は、体験型探究活動の一環で、理化学研究所放射光科学研究センター

手話の奥深さ学ぶ

本校では昨年度から、医療・福祉講座(手話)を開講し、10月、鳥取県中部聴覚障害者センターの講師から手話を学んでいる。その成果として、3月にあった「第18回全国手話検定試験」で、本校の高校生8人全員が合格した。前田来夢さん(2年)は「手話を通して、コミュニケーションの幅を広げたい」と思っただけでなく、手話を知ると、考え方にも

全国検定試験に8人合格



手話の練習をする生徒ら

広がりが出た」と話した。さらに、学習を深めて上位級を目指したいと意欲を見せる生徒もいる。岩田侃大さん(同)は「学習を進めるうちに、手話の奥深さや面白さをより感じました。将来、1人でも多くの方と話ができるよう、これからも大切なコミュニケーションツールの一つとして学んでいきたい」と将来展望を語った。本校は「今後も医療や地域の活性化を目指す生徒を育成していきたい」として

中学2年生が作った新聞です